

新田郷ふるさと通信

vol.1

新田郷の今の活動や、昔の懐かしい行事などをお届けする、ふるさと情報誌です。



絵：高橋 広（1956年生まれで新田郷出身の漫画家、イラストレーター。代表作は月刊少年ジャンプで1985年から2000年まで連載していた「イレブン」などがある。埼玉在住。イラストは旧越中畑小学校）

発刊によせて



白木峠からこの地を望むと、北西から南東に走る国道107号沿いに、その周辺に家々が点在する。山々に囲まれた地域、ここが新田郷である。その北東方面に大台野、一万八千年前に人が住んでいたという大台野遺跡。その年月に気が遠くなりそうだ。そして「黄金の道」ともいわれる「秀衡街道」がある。豊かな歴史が横たわる地域だ。その豊かさをひとつひとつ確かめていくと「未来」が見えてくるかもしれない。そういう甘いことを考えるのには訳がある。そういう豊かさの中にも高齢化、人口減等の問題が立ちだかっている。これを機会に過去を見つめ直し、今から先を考えるために出発する。

かつて「上り列車」に乗ってここを離れた人たちが、ふと振り返るような、そしてその人たちが「下り列車」に乗って訪ねてきてくれるような、そして何より、今住んでいる私たちが希望を持てるような地域にしようと、ここはひとつ「もんぞ」でも語ろうかと思っています。

ふるさと交流実行委員会「新田郷ふるさとふりむけ隊」
委員長 菊池 啓二

新田郷地区からのお知らせ

news!

新田郷地区運動会



平成29年8月27日(土) 9:00～11:30
場所：旧越中畑小学校

児童数の減少により町内小学校の改編が進められ、平成22年度末をもって越中畑・川尻・沢内第一・川舟・貝沢の小学校が廃校となり、空き校舎の利活用が協議されてまいりました。その中で唯一、私たちの母校だけが、地元NPO法人によって小規模多機能ホーム「雪つばきの里」として生まれ変わり活用されておりますし、住民の融和と健康づくりをねらいに運動会も継続開催しております。まさに「継続は力なり」です。

錦秋湖湖水まつり2017

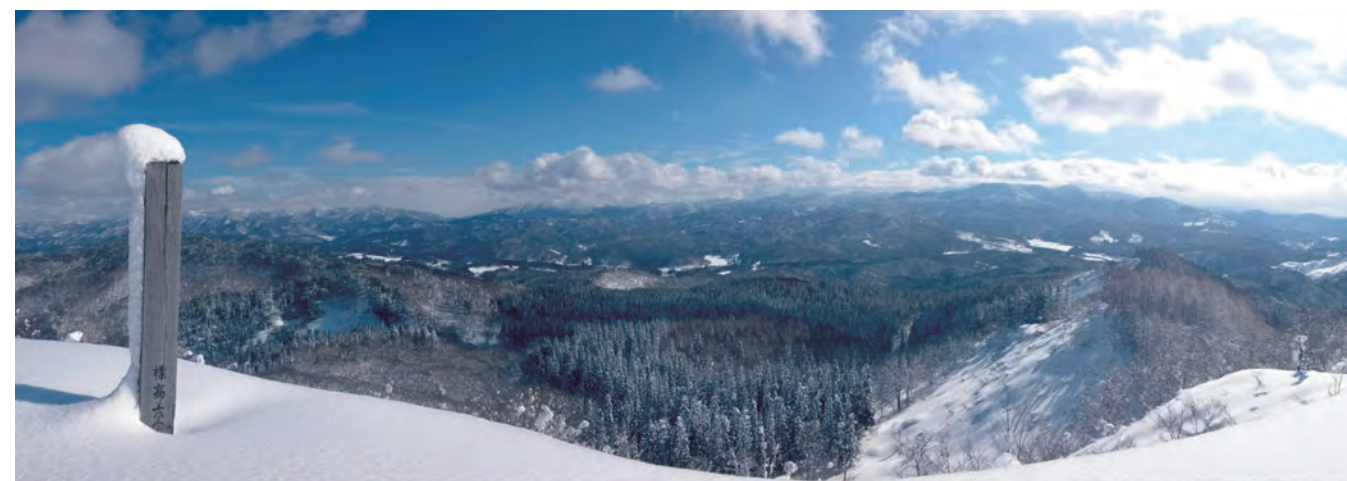


平成29年5月27日(土)
場所：西和賀町湯田庁舎周辺
錦秋湖畔公園

錦秋湖マラソンの前夜祭として行われる湖水まつり。御輿渡卸、夕方からは湖畔の川尻小公園でかがり火に照らされながら雄姿を披露する湯本鬼剣舞公演などが続きます。

メインとなる花火大会では、2000発を超える豪華花火が打ち上げられ、湖面が七色に輝き見る人を楽しませてくれます。

今回の一枚 白木峠山頂からの眺望 (高橋勝久 撮影)



実行委員のひとこと

- 私たちはここにいる。そしてこれからも。@中村
- ソバ栽培してます。蕎麦・ソバ・そば！！@野々宿
- おど、腰曲がってしまった。何んとすべ、この田んぼ…@中村
- 細内の水で、うめ一米作りするべー@細内
- おいしいコーヒーおいしいおそば食べたいネ。楽しみです。
- 今8戸しかなくなった。限界集落になってしまった。やじまけた！@ゆだ高原駅前
- がんばるべ @白木野
- これから頑張ります。@越中畑
- 帰って来～いよお～@野々宿
- 元気です！！か。@野々宿
- 来年の草刈り、なんとすべえ…@白木野

活動の経緯

実行委員会の愛称は、「新田郷ふるさとふりむけ隊」に

当地区出身の皆さん、マメで（お元気で）お過ごしでしょうか？

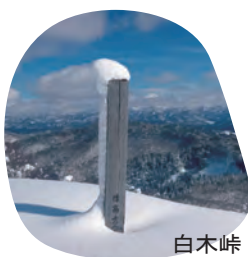
ご承知のこととは思いますが、新田郷地区は、野々宿・越中畑・白木野行政区の総称で、この中には、野々宿・越中畑・中村・白木野・細内・ゆだ高原駅前・巢合の7集落があります。

近年、我が国の総人口も減少傾向にあります。新田郷地区はその最先端を爆走しております。昭和30年の国勢調査では、野々宿35世帯212人、越中畑64世帯349人、白木野81世帯479人、合計180世帯1040人であったものが、平成28年11月末ではなんと、110世帯282人にまで激減しております。さらには、平成47年ともなると、人口推計（左頁をご参照ください）で190人にまで減することが予測されています。そして何よりも問題なのは、年齢構成の推移です。現時点で

は、かろうじて中間年齢層が高くピラミッドに見えなくもない状況ですが、およそ20年後には、80〜84歳までの38人を頂点に、それ以下は、滑り台状態に転じていきます。ヤズマゲダ（困った）なやう！

私たちは、こうした状況を打破すべく、行政区長・旧越中畑小学校同窓会役員・公民館長・教育振興会役員・女性部に加え、町のふるさと振興課職員・NPO法人『いわて地域づくり支援センター』の方々のアドバイスをいただきながら、昨年6月からふるさと交流事業としての行動を起こしました。以後、6回ほどの会議を経て、具体的活動の第一歩として本誌をお届けいたします。

当地区には、コンビニやレジャー施設などありませんし、働き場所も不足しています。無い無い尽くしの地域ですが、台風や地震などによ



白木峠

る大災害や犯罪の発生が極めて少ないことが地域の特徴でもあります。

私たちの究極の願いは、皆さんのなかからひとりでも多くの方々にUターン定住していただくことです。が、まずは、ふるさと新田郷、を振り向いていただく活動からスタートさせたいものと思っております。

その願いを込めて、実行委員会の正式名称を『ふるさと交流実行委員会』とし、『新田郷ふるさとふりむけ隊』を愛称とすることといたしました。

今後も、年2〜3回の『白木峠』発行を目指して参りたいと思っておりますので、本誌を通じて得たふるさと情報をともに、しばらく帰っていない方には年に一度でも、度々帰省している方には更に帰省機会を増やしていただき、ご提言など頂戴できれば幸いです。

メンバー募集中！

ふるさと交流実行委員会「新田郷ふるさとふりむけ隊」名簿

情報誌編集班

名前	集落名
◎ 高橋 勝久	野々宿（区長）
○ 細川 浩	〃（集落公民館長）
菊池 啓二	中村（地区公民館長）
菊池 一治	越中畑（区長）
小原 茂喜	白木野（集落公民館長）
籠山 秀子	中村（婦人部）
高橋 トシ	〃（婦人部）
溝渕 朝子	白木野（婦人部）
高橋 のぞみ	中村（婦人部）

総務班

名前	集落名
◎ 菅原 彰	野々宿（協議会長）
○ 菊池 美吉	白木野（集落公民館長）
高橋 克己	〃（区長）
菊池 賢	越中畑（集落公民館長）
中島 俊弘	細内（集落公民館長）
高橋 司	白木野（教育振興会長）
佐藤 牧子	越中畑（婦人部）
高橋 恵子	野々宿（婦人部）
高橋 秋子	〃（婦人部）

◎リーダー ○サブリーダー

すてっこー服 むかし語り

皆さんが生まれ育った新田郷の、戦後の『昭和』を振り返ってみました。昭和30年代までは、春の農繁期（田植え）には小・中学生に1週間ほどの『田植え休み』が与えられ、貴重な戦力となりました。一方、農家の大人たちにも、田植えが終わってから3〜7日間の休みがあり、疲れ切った心身の回復に努めました。そしてこの休みはお嫁さんの里帰りの数少ない機会でもあったわけです。

また秋にも、子どもたちには『稲刈り休み』があり、校長先生がその日の天候を見、はせ掛けによる稲の乾燥作業の手伝いをさせました。農家以外の子どもも、それぞれ近所の手伝いをしたわけですが、食糧が不足していた時代、一服休みのおやつが何よりも楽しみだったんでしょね。大人たちはという、秋祭りのひとつとして各集落の青年会が中心となり、演芸会

を開催してまいりました。この演芸会は、戦後に始められましたが、当時は公民館もなく、お堂を会場に行われていたようです。その後、小学校を会場にPTA婦人部が中心となった演芸会に移行し、昭和30年代の中盤まで続けられました。当時は、股旅ものが全盛期で、この演芸会を通じて、数々のロマンも生まれたようです。

そのほか、住宅を新築したときには、その家主が様々な催しを企画し手伝っていたいたお礼としていました。例えば、町の教育委員会から映写機（ナトコ製）を借りての映画上映会、人形まわし、楽団を呼んでの演奏会開催などなど。

戦中・戦後の混乱に加え、機械力も整っておらず、農作業や除雪作業などかなりの重労働であったはずですが、こうしたささやかな楽しみを生甲斐にして、今の新田郷の基盤が築かれました。

（文：小原茂喜【白木野】）

12月

しめ縄づくり……………中村

11月

泥洗い（収穫祭）……………各集落

区ごとに美味しいものを食べます

10月

PTAリサイクル活動……………各集落

9月

山神神社祭り……………ゆだ高原駅前

山祇神社……………巢郷

杉森神社例大祭神輿・直会……………野々宿

細内神社祭り・お神輿……………細内

昔は子供たちにお菓子を配った行事。今は1軒ずつまわり、拝んでもらい、お餅やお神酒を配る方法に。

8月

秀衡街道の草刈り……………有志で

白木峠ハイキング……………越中畑

澤口神社宵宮・神輿……………越中畑

頂上は、大曲や横手の花火も見える程の眺望！

澤口神社宵宮・神輿

白木峠ハイキング

交通安全祈願祭（巢合観音さま）成人式……………町全体

盆踊り……………町全体

踊りに屋台、抽選会も！やぐらを建てて盆踊り。

運動会

運動会

銀河ホール地域演劇祭……………町全体

敬老会

西和賀農業まつり……………町全体

稲刈り・キノコ採り

芸術文化祭……………町全体

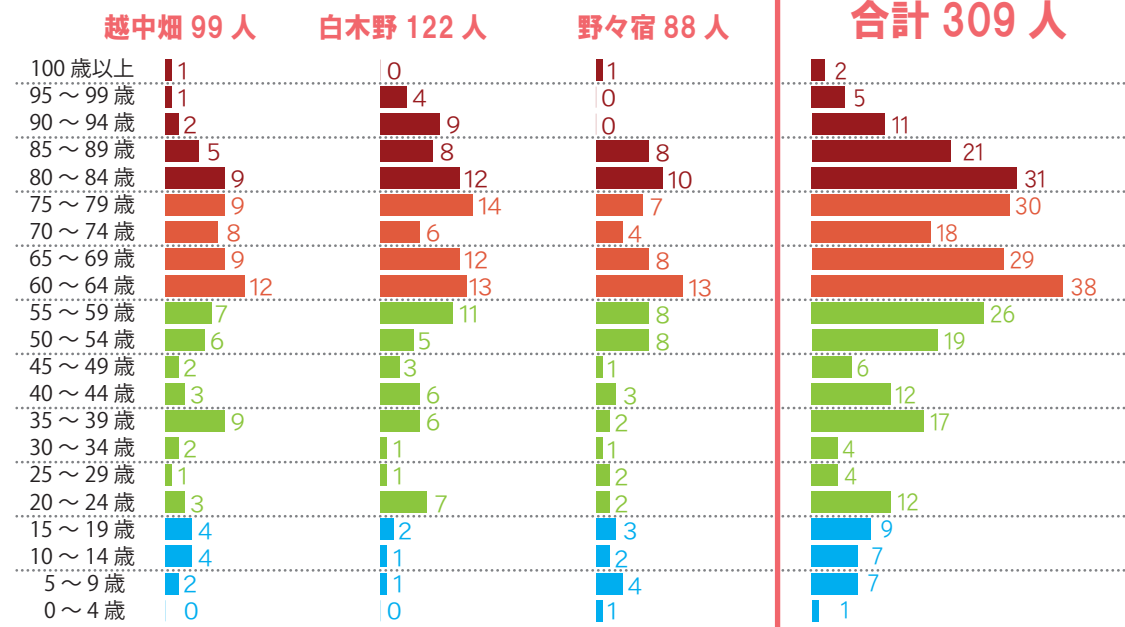
20 年後の新田郷

西和賀町生まれの子供たちは、高校に進学するときに 3 割、高校を卒業した時にさらに 3 割が町を離れています。20 歳までに 6 割が町を離れています。

20年後、現在の0～20歳の約3分の2が町を離れ、さらに残った21～40歳の3人に1人が子供を1人産んだと想定すると、人口は190人になります。

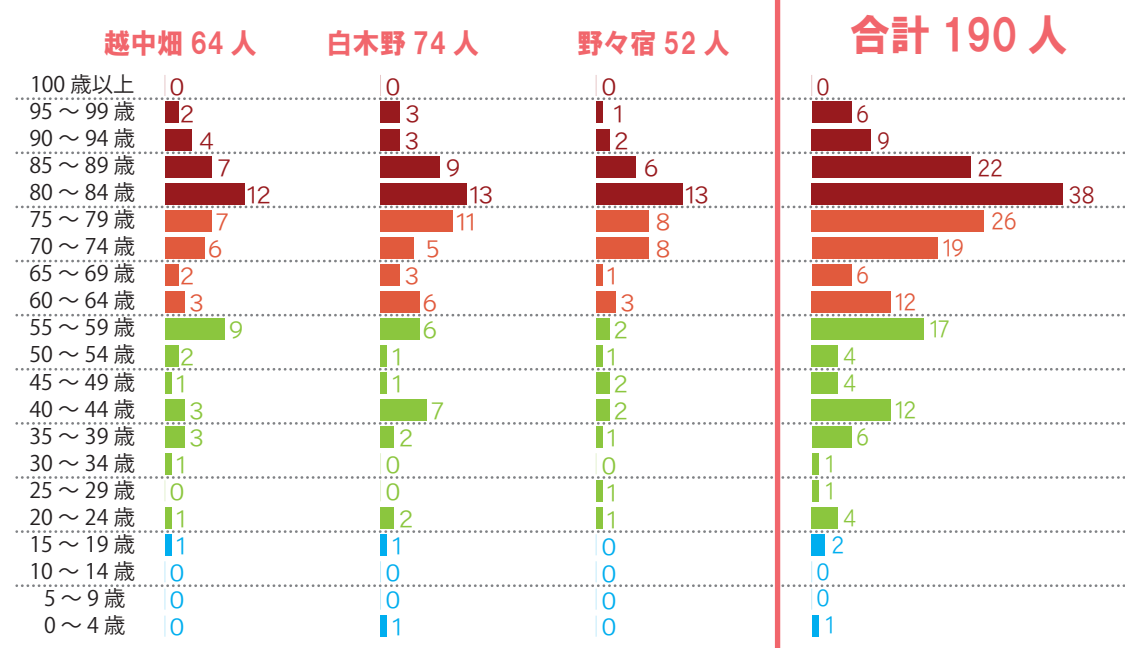
注目すべきは子供の数で、20 歳未満の人口が2～3 人になることです。これは地域とって、見落とすことのできない大課題です。

● 平成 27 年度



● 平成 47 年度

20年後



いわて地域づくり支援センターの独自の推計結果より

新田郷の
行事など

新田郷で行われている行事を紹介します。
地域の魅力がたっぷり詰まった行事ばかりですよ！

集落・行政区ごとの行事

新田郷全体の行事



北上市内の高校卒業後、神戸の大学で商学を学んだ。その後、東京の引越し流通業者で営業として9年間働いた。

「神戸はおしゃれで、物価も安く、ずっと暮らしても良いかなと思うほどでした！東京も最先端だし、いろんな出会いがあつて、やりたいうこともたくさんできましたね」。

働きながら、ピラティスやメンタルヘルスを学び資格も取った。「でも、9年間でやりたいことはやり切っちゃいました」と笑う。

西和賀を出たくて



町が変わろうとしてる

ある日、町の若者が発信する「西和賀まるごと食ってみてける隊」のフェイスブックを見つけて、『町が変わろうとしているのかな』と感じた。そんな思いも後押しして、平成27年6月、西和賀に地域おこし協力隊として戻ってきた。

「帰省した時に、ふと見上げた星空がすごくキレイだったんです。今思えば、あの時に『帰ってこようかな』って思ったかもしれないです」と振り返る。

若い人の希望が
若い人を連れてくる

町に帰ってきてからピラティス教室を始めた溝渕さん。将来は資格を活かした仕事ができれば……と夢を語ってくれた。

「同級生が増えたらうれしい！毎年同級会をやっているけど、次は町内でやるのもいいかも…」。

若い人の希望が若い人を呼んで、町は変わっていくのかもしれない。

新田郷地区産直組合の活動

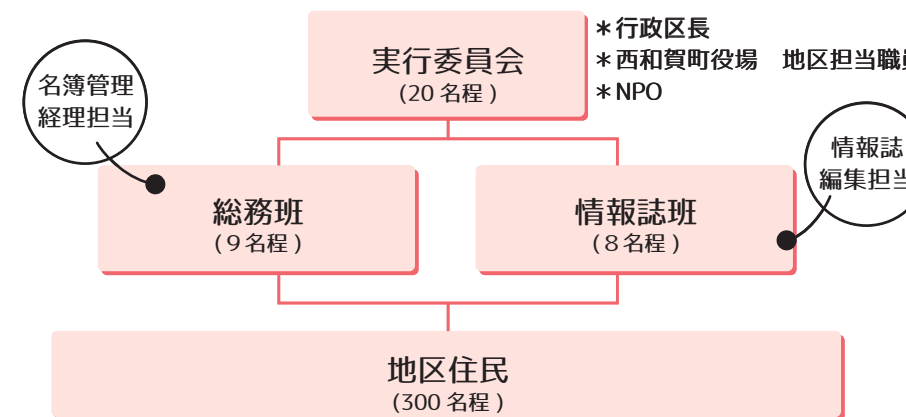
この産直は、新田郷地区館に併設されている店舗（産直高原プラザ）で始めてから12年目になりました！メンバーは10人ほどで活動しています。

営業期間は5月末から10月末まで。春は山菜に始まり、夏は採れたて野菜や切り花、秋はキノコなど他にも色々店頭に並びます。漬物や、工芸品のコーナーもあります！気軽にお立ち寄りください！



実行委員会をつくりました

ふるさと交流実行委員会「新田郷ふるさとふりむけ隊」の組織図を紹介します。検討の段階では、カフェや物産もやっていきたいとのアイデアも出てきました。



将来やりたいもの

特産品・販売担当

物産班

カフェ・そば屋担当

カフェづくり隊

新田郷・・・やってらよ！

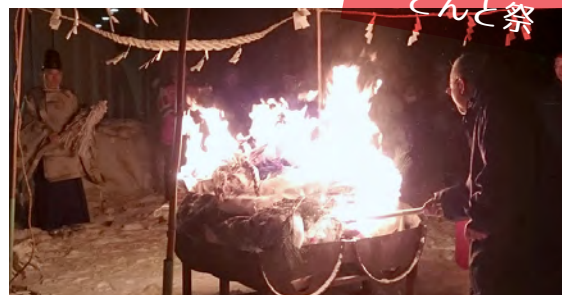
新田郷で活動している様子を少しご紹介します。子供から大人まで、協力して頑張っています。

PTA リサイクル活動



毎年4月と10月頃にPTAでリサイクル活動を行っています

どんと祭



2017年1月に行ったどんと祭の様子です

夏の運動会



毎年8月に行われる運動会は地区の一大行事です

敬老会の様子



毎年9月頃、敬老会開催！子供たちの踊りも披露されます

情報誌編集班で編集作業中



使用する写真を選んだり、文章の確認をしたりする情報誌編集班のメンバー

情報誌編集班は現在10人で構成され、平均年齢が60歳越えのうえいずれも素人で、本紙のネーミングや掲載内容などの検討段階から“七転八倒”状態です。ですが、地域のご支援をいただきながら8人の知恵を出し合い回を重ねながら充実させ、皆様方から懐かしがられる情報誌にしていきたいと思っております。よろしくお願いします。

実行委員会 総務班



名簿の管理について検討する総務班

総務班は7人で構成され、新田郷出身者の情報収集を主な役割としています。在住者（新田郷地区民）から、兄弟・子供・孫の情報提供を頂く事が、個人情報及び正確さの上からも良いのではの下に、出身者の情報提供をお願いするものです。

この新田郷情報誌「白木峠」が、ふるさとを離れて暮らしている皆様方の小さなよりどころとして読まれ、新田郷在住者（親・兄弟）に寄り添い、供にふるさと新田郷の明日に思いをはせて頂ければと思います。